

共に生き
支え合う
社会

ふれあい麻溝

— 麻溝社協だより —

令和3年9月発行 (第105号)

麻溝地区社会福祉協議会
相模原市南区下溝 594-6
Tel 042-778-2381
麻溝まちづくりセンター内

街頭募金



日時 令和3年10月1日 (金)
午前10時～正午
午後1時～午後3時
場所 三和麻溝店・原当麻駅周辺

ご協力いただいた募金は、「地区敬老事業」
「ふれあい給食サービス」「サロン運営」など
に活用されます。
今年度も、ご協力よろしくお願ひいたします。

ふれあい・ いきいき 子育てサロン



昨今の新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、感染拡大防止対策として、3月末まで地区内14サロンすべての活動を中止とさせていただきます。令和4年4月からの再開を目指し、準備・情報提供などを進めてまいります。

今年度のサロン活動は中止となりましたが、高齢者サロンをご利用のお届け可能な方に、サロンからメッセージカードをお届けしています！



麻溝地区敬老事業

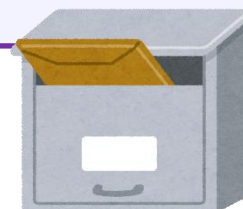


敬老祝品 配付

麻溝地区では、例年9月から敬老事業として「敬老祝品配付」「長寿フェスティバル」「手紙ふれ愛交流事業」を実施していますが、今年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため「長寿フェスティバル」は中止となり、小学校児童の協力が不可欠な「手紙ふれ愛交流事業」は実施可否を検討中です。

「敬老祝品配付」につきましても、市ガイドラインに則り、昨年度と同様に「郵便受けへの直接投入によるお届け」とさせていただきますことになりました。

今年も10月中旬から11月中旬に、各自治会の福祉委員が対象者宅(約910名)の郵便受けへ祝品をお届けに伺います。ささやかではございますが、敬老の日のお祝いとして、お楽しみいただければ幸いです。年に一度の機会にお会いできず残念ですが、いつまでもご壮健であられますよう、心よりお祈りいたします。



【 協 力 】
麻溝地区自治会連合会
麻溝地区民生委員児童委員協議会
麻溝地区老人クラブ連合会
麻 溝 公 民 館

社協はみんなの参加と協力で

研修会に参加しました



7月9日(金)、ユニコムプラザさがみはらにおいて大野南地区社協・福祉講座『知っておきたい日常の感染防止対策～安心・安全の毎日を送るために～』が開催されました。講師が、相模原中央病院看護師長であり感染管理認定看護師の柴崎敦先生(中央病院に30年間勤務しておられ、相模原市で新型コロナウイルス感染が確認された当初から対応にあたられた方)で、テーマが【新型コロナウイルスに関する正しい情報や感染予防】ということもあり、多くの方が参加されていました。

日常いまだにコロナウイルスという言葉が離れませんが、ウイルスは細菌の50分の1程度の大きさ。細菌と異なり抗生剤・抗生物質は効かないそうです。インフルエンザと比べて潜伏期間が長く(最大14日、平均4~5日程度)、発症前から感染力があり、知らないうちに他の人に感染させてしまうという怖さがあります。

相模原市の感染状況として、①70歳以上の感染患者減少(6月中旬より) ②50歳以下の感染者が増加(企業等のクラスター) ③10~30歳代の急増(就業・学生の活発化・感染経路不明増)に比べて、ワクチンの接種効果か高齢者施設のクラスター減少、が見られるそうです。また、ワクチンは接種2回目以降10日前後で、90%以上の予防効果(免疫)が得られると報告されているそうです。

インフルエンザ治療薬にはタミフル等がありますが、新型コロナの治療薬は現時点ではありません。主な感染経路である飛沫感染(咳・くしゃみ)や接触感染(手から口・目へ)を防ぐためには、言い尽くされたことではありますが、マスク・換気・密にならないよう気を付けることです。ワクチン接種が済んだ人でも、変異ウイルスに立ち向かう最善の方法として、引き続き手洗いと手指消毒・適度な換気等を心掛けることが大切だと思いました。(会長 境勉)

麻溝地区でも、12月に福祉講座の開催を予定(新型コロナウイルスの感染状況により延期の可能性あり)しています。今回の研修で学んだような『今、必要とされている情報』を、地域の皆様にお届けできるよう企画してまいります!

紙上旅行 夢想の旅

～ 夢想の旅 第一回 長野県小布施町編①～

新型コロナ禍で外出自粛の鬱々とした日常から逃れて、小さな旅に出かけてみませんか?

今回は長野県北東部に位置する小布施町が目的地です。

東京駅で駅弁を買い出発です。



北陸新幹線で長野駅まで1時間45分、長野駅から長野電鉄で34分で小布施駅に到着です。

車中で駅弁をいただき、車窓の風景を楽しみながら思いっきり開放感に浸って旅をしましょう。

小布施町 ～ 栗と北斎と花のまち ～

小布施町の人口は約1万1千人の小さな町ですが、年間100万人超の観光客が訪れます。

ですが小布施町は観光用に作られた町ではありません。江戸時代には交通と経済の要所

として栄えました。交通のクロスポイント『逢瀬』が地名の由来と言われています。

人が行きかい集まる歴史の中で、独特の文化が花開き、小林一茶や葛飾北斎も

小布施の魅力に引き付けられた客人の一人だったのです。

近年になってからも長い歳月をかけて、住む人も訪れる人も幸せになれる町づくりのために、

様々な取り組みがなされ、訪れる人の心を引き付けているのです。(文: 仲川邦廣) <小布施町編②へ続く>



【団体助成金の交付】

麻溝地区社協では、地域の各種活動団体(子ども・高齢者関連等)へ助成金を交付しています。

今年度も、11月~12月の交付を予定しています。



《編集後記》

令和3年も、長引く新型コロナウイルスの影響を受け「サロン」「福祉バザー」「長寿フェスティバル」の活動が自粛となっておりますが、9月の発行より紙上旅行「夢想の旅」を掲載致しました。旅行も自粛されている中で、紙上ですが旅行気分を味わって頂ければ幸いです。